



カット:安藤俊恭(39年入学)
「東北大学川内仮校舎」

会 報

第 25 号

東北大学教育学部
同窓会東北支部

特集・教育の原点——特別支援教育の意味

パラリンピックが伝えるもの

東北大学教育学部同窓会東北支部理事 桂 島 新 一 (昭和28年入学)

ひろく世界を眺めてゆくと、障がい児・障がい者を大切にす国家社会ほど治安が良く、住む人たちの幸福度が高いといわれます。法令や制度を整備しつつ、障がい児・障がい者をいかに大切にできるかは、世界平和と全世界に福利を広げるための最初の課題です。今回は「特別支援教育」を特集とし、現状と今後の方向について、改めて考えていく契機にしたいと思っています。(編集子)

私(桂島 新一)は、台原交差点に立ち続けて14年。「見守り声かけ」をしております。

その日、バスが急停車しました。助けに行った私を、若者は恐ろしい目でらみつけたのです。散乱した松葉杖をひろい、自力で立ち上がったのです。障がい者にはこのような「おびえ」と「怒り」があるのでしょうか。

今も毎朝、支援学校行きバスを見送っています。H男は、中1年ですが「無言」。話すことができません。「早産、880g」で生まれたからでした。今まで我々は、妊娠している女性をどれだけ大切にしてきたでしょうか。

H女は、歩けません。立てません。いつも車椅子です。母親は流動食をつくり、おむつを替え、くたくたなのです。その母を助けるに、支援学校の車が来るのです。

M男は、足が変形、大声をあげ、人を殴ります。本屋の店頭で童謡の玩具を独占しますが、この頃はうなずいて、バスに乗るようになりました。確実に成長があるのです。

人間は苛酷な障がいに出会っても必ず助けようとしてくれる伴走者がいるものです。人間はずばらしい。パラリンピックが伝えるもの、それは見守るだけでなく、まず「声をかける」こと、喜びやさまざまな感情を共有していくこと、有形無形、

支援することの大切さです。

人は平等です。この理念を、特別支援教育では、制度に配慮しつつ具現化してゆくことが課題です。

筆者紹介:桂島新一(かつらしま・しんいち)、宮城県公立学校教員。県内小中学校長を歴任。現在、公立学校の委嘱を受けて、障がいある児童生徒の生活指導を行っている。障がい児や保護者からはつねに絶大な信頼が寄せられている。

【総会案内】

コロナの影響で「総会・講演会・懇親会中止」

東北支部令和3年度第5回(仙台支部第42回)を11月20日(土)と設定し準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、第2回の役員会(書面)での意見を踏まえ、やむなく中止する決断に至りました。参加を予定されていた皆様、誠に残念であります。ご理解を願います。

書面にて協議・報告事項をお知らせし、ご異議がなければ承認とみなし、提案通り執行させていただくこととしました。会報25号の4ページ～5ページの記載の内容をご覧ください、ご確認・ご理解・ご協力をよろしく願います。

聴覚障害児たちにふれて

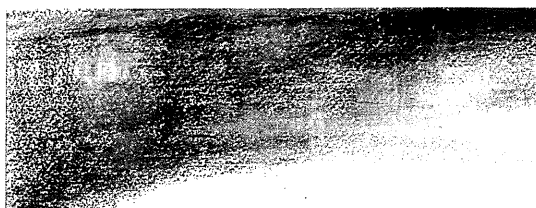
渡辺 雄彦 (27年入学)

私が大学を卒業した年は大変な就職難で、受験した郷里福島県の高校(美術)の採用は1名だけだった。そんな時、同じ県立の福島聾学校から誘いを受けた。初めて聾学校を訪ねた時、校庭の子どもたちが駆け寄って来て話しかけられたが理解できなかった。こちらからの話も通じない様子でまるで外国の学校に来たような気分だった。

当時の聾学校は「口話教育」が国の方針で、学校での手話は禁止されていた。それでも高等部の生徒たちは手話で話していて、私も自然に覚えることができた。その後、生徒たちとの意志疎通がよくできる先生として生徒会係に任命され、更に同窓会の人たちとの交流も多くなった。大学では聾教育について何も学ばないままの就職であったが体験的学習により、学級担任も任され、生徒や卒業生たちとの信頼も濃くなっていった。

聾学校在勤8年が過ぎる頃、宮城県の公立高校の校長から採用したい旨の連絡があった。以前から高校の美術教育をやりたい気持ちがあったのでこの話を応諾することにした。このことを知った同窓会と生徒会が私を転出させない署名活動をはじめたことを知って困惑したが理解してもらった。私にとって、この8年間の聾教育の経験が、その後の35年に亘る教育の原点と云っても過言ではない。

渡辺雄彦(わたなべ・たけひこ)福島県・宮城県公立学校教員(美術)。宮城教育大学名誉教授。宮城県芸術協会副理事長。宮城県教育文化功労賞、地域文化功労文部科学大臣表彰等受賞。



カット:安藤俊恭(39年入学)

妹と過ごした半生

三繩 貞子 (34年入学)

私は、相馬の中村町に生まれました。私と双子で生まれた妹は出産時の酸素不足のため知的障害者として一生を送りました。少女時代、私はこの妹の世話を懸命にしました。

特殊学級も養護学校も無かった頃のことです。小中学校の登下校の送迎から放課後まで、いつも妹と一緒に過ごしました。時々いじめに遭う妹を、おとなしい性格の私も必死になってかばいました。生涯、妹を守って世話を続けるには、私自身自立することが必要と考え、大学進学を目指しました。当時、東北大学経済学部 に在学していた兄2人のいる仙台の、一女高に転入学し、家族の協力もあって、私も大学進学を果たしました。

卒業後神奈川県で教職に就き、結婚しましたが、主人の配慮で、月に1回、横浜から主人の運転する車で、相馬の実家に戻り、妹を誘って、妹の行きたいところに案内し、妹を元気づけたものです。妹は毎回とても喜んでくれました。

妹は9年前に亡くなりましたが、私の青春は妹の世話で明け暮れました。妹のお蔭で、多くの方々の温かい善意に触れ、私も幸せを感じることの多い半生です。

三繩貞子(みなわ・ていこ)、福島県生。神奈川県公立学校教員(中学校・社会・英語)を経て、母堂や令妹の介護のため早期退職。婚家・実家の親族全員が知的障がいのある令妹の一生を支えた。筆者の令兄は元県教育長。

生きる涙

檜野 武彦 (37年入学)

この春のことである。中学の同級生（I君）から電話が入った。車で近所まで来たがどこで会えるかと。何年か前の同期会で作成した名簿を頼りにしたらしい。実はあのことがあってから忘れられない彼なのだ。喜んで会うことにした。

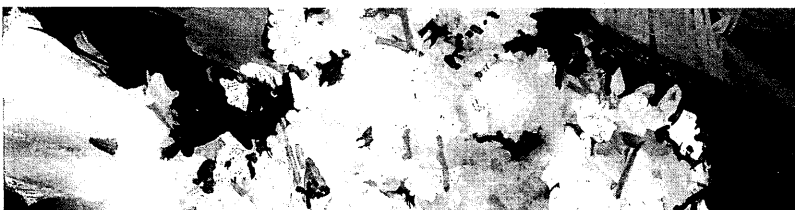
あのことは、小学3年のできごと。黒板に向かってI君は足に不自由があって床にコトコトと足音を残した。クラスの誰かが、その足音に鉛筆で机をたたいた。突然「そういうことをしてはいけない」とふだん怒ったことのない先生が顔を赤くして大声を上げた。クラスは一瞬にして凍りつき静まりかえった。

その時である。I君は「いいんだ、いいんだ」と申しわけなさそうにそうつぶやいた。顔には一滴の涙がしたたり落ちていた。

その声と涙を今日の今まで忘れる事はなかった。あの「いいんだ、いいんだ」とあの涙は何だったのだろう。今も答えが見つからない自分がある。

大学を出て障がい児と向かい続けた30数年、そんなこと知ってか知らずか、同級生のこと、今はまっている魚突きのことなどを楽しそうに話していた。次の週も自作のヤス（注・魚介を刺して捕らえる漁具）を土産にやってきた。おもえば、魚取だけが楽しみだった田舎生活に焦点を合わせてくれたI君の来訪であった。

檜野武彦（ひの・たけひこ）宮城県公立学校教員（美術）。長町、小牛田、狭間、西多賀の養護学校に奉職、40年近くを特別支援教育に挺身した。人間性豊かな教育観には多くの信奉者がいる。



日々教師として学び続ける

吉川 邦彦 (50年入学)

中高の教員として「頑張ればできる」と伝えてきた。けれど、教育支援センターに勤めて、この価値観は正しいとは限らないと思い知った。総知能偏差値(FSIQ)は一般的なのに、漢字が認知できず似た平仮名は同じに見える。英語は得意なのに中3生でも割り算ができない。所員の話はわかるが、自分の名前は書けない子もいる。そんな彼らをうまく指導できない自分が、つくづく嫌になった。

私ごとになる。就学前の頃、朝早く起きて虫取りしていた時、腕がなく肩から直接手首のあった、そんな少女に出会った。医者のお嬢さんであった。転んだその子を助けようとするご近所の人に、ご父母が「一人で生きていかねばならないので手助けはやめて」と怒鳴ったそうである。「みんながってみんないい」のは、児童生徒が、やがて自分一人で生きていけるだけの諸力をもてるようになり、支援者として確信できる場合に限るのかもしれない。

「一所懸命は大切」「頑張った分褒められる」「頑張らなくてもいい」等は、一所懸命頑張っても心身の都合で思うままにできない子どもらに対し、言うてはいけない場合もあるのだと、教員を志して40年目にやっと理解できるようになった。

吉川邦彦（きっかわ・くにひこ）、本学大学院教育学研究科修了後、宮城県公立学校教員（国語）、県高等学校長、学校法人育英学園参与を歴任。



カット：安藤俊恭(39年入学)

令和2年度 東北支部事業報告

<p>顧問会・監査会 3月 顧問会(書面) 監査会 理事と鈴木会計 委員が個別対応</p> <p>第1回支部役員会 (書面)</p> <p>第2回支部役員会 8月22日(土) 午後1時30分～ 会場: 文系総合研究棟 11階中会議室 教育学部同窓会東北支部 第4回(仙台支部第41回) 総会 書面による開催</p> <p>10月3日臨時役員会 11月14日(土)午後1時～ 会場: 文系総合研究棟大会議室</p> <p>第3回支部役員会 令和3年1月16日(土) 書面開催</p> <p>顧問会・監査会 3月27日(土) 顧問会(会議室)(書面) 監査会(教室)(中止)</p>	<p>協議事項</p> <p>報告事項</p> <p>協議事項</p> <p>協議事項</p> <p>連絡事項</p> <p>総 会</p> <p>協議事項</p> <p>記念講演</p> <p>報告事項</p> <p>協議事項</p>	<p>①役員補充について ②令和2年度第4回総会時講師について ③その他 ④令和元年度会計監査</p> <p>①令和元年度東北支部事業報告・会計決算報告 ①令和元年度東北支部事業報告・会計決算報告の承認 ②令和2年度東北支部事業計画・支部会計予算案 ③令和2年度第4回総会時講師について ④令和2年度東北支部総会に ついて ⑤「会報24号」発行について ⑥役員改選(事務局・年度理事改 選)について ⑦東北支部での会員増について ⑧その他</p> <p>令和2年度東北支部第4回(仙台支部第41回)総会について ①講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担 ③第4回支部 役員会の日時とかいひについて ④その他(各委員会から) ★10月1日「会報24号」発行</p> <p>①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務について(発送月日10月 3日台原コミュニティセンター) ②第3回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項 東北支部第4回(仙台支部第41回総会)(午後1時～)</p> <p>①令和元年度事業報告及び会計報告について ②令和元年度会計監査報告 の承認について ③令和元年度事業計画及び会計の中間報告について 支部長交代等 緊急提案決定 記念講演 中止 懇親会 中止</p> <p>①東北支部第4回(仙台支部第41回)総会報告 ②令和2年度東北支部事業・会計中間報告</p> <p>①東北支部第3回(仙台支部第41回)総会の反省事項 ②令和3年度東北 支部事業計画・会計予算案について ③役員会・総会の持ち方について ④東北支部第5回(仙台支部第42回)総会日時の確認 ○役員補充について ○令和3年度第5回総会時講師について ○その他 ○令和2年度会計監査(令和3年8月中 監事に郵送で個別に実施)</p>
---	--	---

令和2年度 東北大学教育学部同窓会東北支部会計決算報告

令和3年3月31日

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

項 目	今年度予算額A	今年度決算額B	比 較	備 考
会 費	240,000	264,000	24,000	会費264名分
繰 越 金	184,277	184,277	0	前年度繰越金
雑 収 入	1,023	3	△ 1,020	
合 計	425,300	448,280	22,980	

2. 支出の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

項 目	今年度予算額A	今年度決算額B	比 較	備 考
事 務 局 費	179,000	178,038	△ 962	
①印刷費	30,000	66,930	36,930	印刷、コピー代等
②消耗品費	9,000	12,210	3,210	用紙、インク代等
③事務手当	35,000	30,000	△ 5,000	事務手当
④通信連絡費	100,000	68,898	△ 31,102	総会、役員会案内
⑤雑費	5,000	0	△ 5,000	
会費振込費	5,000	2,103	△ 2,897	会費振込手数料他
会 議 費	30,000	15,496	△ 14,504	役員会等
会 報 費	75,000	72,512	△ 2,488	
①印刷費	65,000	66,000	1,000	会報印刷代
②通信連絡費	10,000	6,512	△ 3,488	会報担当通信費等
総 会 費	35,000	0	△ 35,000	
①会場費	0	0	0	会場使用料
②表示関係費	5,000	0	△ 5,000	表示作成費
③講演会費	30,000	0	△ 30,000	講師謝礼
慶 弔 費	10,000	0	△ 10,000	弔電等
雑 費	10,000	0	△ 10,000	貸付利子
予 備 費	81,300	0	△ 81,300	
運 用 基 金	0	0	0	
合 計	425,300	268,149	△ 157,151	

3. 残 高 448,280円 - 268,149円 = 180,131円

II 運用基金 900,000円(ゆうちょ銀行、定期積立)

III 協力金 令和元年度 337,110円 令和2年度 261,401円 計 598,511円

会 計 監 査 報 告

令和2年度、東北大学教育学部同窓会東北支部の会計決算にあたり、会計出納簿・領収書・通帳を点検したところ、適正かつ正確に処理されていたことを報告致します。

令和3年8月24日

監事 井原佳宏

監事 吉野信武

令和3年度 東北支部事業計画(案)

<p>顧問会・監査会 3月27日(土) 顧問会(書面)</p> <p>監査会 第1回支部役員会(書面) 5月15日(土) 午後1時30分～ 会場：文系総合研究棟 306教室</p> <p>第2回支部役員会(書面) 8月21日(土) 午後1時30分～ 会場：文系総合研究棟 11階中会議室</p> <p>教育学部同窓会東北支部 第5回(仙台支部第42回) 総会 中止 11月13日(土)午後1時～ 会場：文系総合研究棟大会議室</p> <p>第3回支部役員会 令和4年1月15日(土) 午前11時～ 会場：ホテルJALシティ仙台</p> <p>顧問会・監査会 3月26日(土) 顧問会(会議室) 監査会(教室)</p>	<p>協議事項</p> <p>報告事項</p> <p>協議事項</p> <p>連絡事項</p> <p>総 会</p> <p>記念講演 懇 親 会 報告事項</p> <p>協議事項</p>	<p>①役員補充について ②令和3年度第5回総会時講師について ③その他 ○令和2年度会計監査(監事と郵送で個別に実施)(8月中に実施)</p> <p>①令和2年度東北支部事業報告・会計決算報告 ②令和2年度東北支部事業報告・会計決算報告の承認 ③令和3年度東北支部事業計画・支部会計予算案 ④令和3年度第5回総会時講師について ④令和3年度東北支部総会について ⑤「会報25号」発行について ⑥役員改選(事務局・年度理事改選)について ⑦東北支部での会員増について ⑧その他 令和2年度東北支部第5回(仙台支部第42回)総会について ①講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担 ③第5回支部役員会の日時と会費について ④その他(各委員会から) ★11月1日「会報25号」発行 ①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務について(発送月日11月6日(土)10時から教育学部) ②第3回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項</p> <p>①令和2年度事業報告及び会計報告について ②令和2年度会計監査報告の承認について ③令和2年度事業計画及び会計の中間報告について</p> <p>中止 中止</p> <p>①東北支部第5回(仙台支部第42回)総会報告 ②令和3年度東北支部事業・支部会計中間報告</p> <p>①東北支部第5回(仙台支部第42回)総会の反省事項 ②令和3年度東北支部事業計画・会計予算案について ③役員会・総会の持ち方について ④東北支部第6回(仙台支部第43回)総会日時の確認 ①役員補充について ②令和3年度第6回総会時講師について ③その他 ④令和3年度会計監査</p>
--	--	---

令和3年度 東北大学教育学部同窓会東北支部会計予算(案)

令和3年4月1日

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

項 目	前年度予算額A	今年度予算額B	比 較	備 考
会 費	240,000	240,000	0	会費
繰 越 金	184,277	180,131	△ 4,146	前年度繰越金
雑 収 入	1,023	9	△ 1,014	利子、他
合 計	425,300	420,140	△ 5,160	

2. 支出の部

(△ 予算との比較減B-A 単位:円)

項 目	前年度予算額A	今年度予算額B	比 較	備 考
事 務 局 費	179,000	220,000	△ 41,000	
①印刷費	30,000	75,000	45,000	印刷、コピー代等
②消耗品費	9,000	15,000	6,000	用紙、インク代等
③事務手当	35,000	35,000	0	事務手当
④通信連絡費	100,000	90,000	△ 10,000	総会、役員会案内
⑤雑費	5,000	5,000	0	
会費振込費	5,000	3,000	△ 2,000	会費振込手数料他
会議費	30,000	30,000	0	役員会等
会報費	75,000	80,000	5,000	
①印刷費	65,000	70,000	5,000	会報印刷代
②通信連絡費	10,000	10,000	0	会報担当通信費等
総 会 費	35,000	35,000	0	
①会場費	0	0	0	会場使用料
②表示関係費	5,000	5,000	0	表示作成費
③講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼
慶弔費	10,000	10,000	0	弔電等
雑費	10,000	10,000	0	
予備費	81,300	32,140	△ 49,160	旅費卒業祝賀会費
運用基金	0	0	0	
合 計	425,300	420,140	△ 5,160	

II 運用基金 900,000円(ゆうちょ銀行定期預金)

III 協力金 598,511円(ゆうちょ銀行普通預金)

渡邊前支部長の業績を称えて

前本部事務局長 神谷 哲司 (H2年入学)

渡邊宣隆前支部長は、平成23年11月に仙台支部の支部長にご着任なされ、その後、令和の時代にまで3期にわたりご活躍いただきました。

渡邊支部長のご功績といえば、なによりも本支部が、平成28年から東北支部へと生まれ変わった点だと思います。それは、会員の居住地について、新潟を含めた東北地区に広げるのみならず、支部の会員として「学生・院生」を明記された点も大きな特徴でした。本部同窓会との連携についても、常に心掛けておられた支部長ならではのことと存じます。

東北支部になって以降も、平成29年から「事務局だより」として、新たな支部の会員勧誘の状況や本部、支部役員会の情報提供など、令和2年まで計14号（特別号を含む）を精力的に刊行されました。これらは、同窓会のwebページでも一部閲覧可能となっていますので、ぜひご覧いただければと思います。

個人的にも、渡邊先生より、同窓会のことのみならず、事務手続きなども含めた会の運営の留意点や、支部長として、その組織のどのような点に目を向け、なにを考えるべきなのかといったことについても、非常に多くのことを学ばせていただきました。この場を借りて深謝申し上げます。



カット: 安藤俊恭 (39年入学)

フォトアルバム



昭和42年10月 文系学部共通科目
東洋芸術史実地研究(奈良唐招提寺)



昭和43年5月 文系学部運動会(三神峯)



昭和44年5月 文系学部有志魚釣大会



昭和44年10月 文系学部、共通科目集中講義打ち上げ。画面の左、秋山東大教授、その右、片野東北大助教授

《東北支部事務局からのお願い》

会費納入のお願い

令和3年度分の会費納入のお願いです。今年度も総会が書面開催ということになり、例年総会時に納入いただいたこともありましたが、今年度は振込での納入になり、お手数をおかけしますが、同封の振込用紙で会費を納入ください。会費は1,000円ですので、それを越えた分については協力金とさせていただきます。

なお、本年度も振込手数料のご負担をお願いいたします。払い込み方法については事務局だよりをご覧ください。少しでも手数料の安い方法でご納入ください。

余 滴

今を去る60数年前。東京麻布の小学6年だった私は同じ学校の5年生の小児麻痺で歩行が不自由な男の子を介助しながら、一緒に登下校していた。大変なことだった。

当時近くの渋谷には米軍基地があり、アメリカから優秀な医師が派遣されていた。私は米軍の医師に小児麻痺の友だちを、最新の欧米の医学で救ってはもらえないかと、米軍の公式通訳だった母に相談した。

数週間後、母の仲介で、彼は米人医師に詳しく診てもらうことができたが、アメリカでの治療が必要ということ、経費が莫大なこと、それでも決定的な解決策は必ずしも期待できないことなどを言い渡され、彼も彼の両親もがっくり肩を落としていた。

出しゃばって良いきっかけを作ったつもりだった私は、皆に期待を抱かせただけで何の役にも立たなかった自分が恥ずかしく、しばらく落ち込んでいた。

しかし、彼の両親や担任や校長先生が喜んでくれ、友達のことを思って、ことを起こした私を褒めてくれた。そのことよりも、それまで殆ど彼を無視していた彼のクラスの子どもたちが、彼の健康と障害を皆で気遣うようになり、彼は教室で笑顔でいることが多くなったと担任の先生は後日私の母に話してくれた。失敗しても善意と友情でなにかをする時、きっと良き意味が生じると私は思い直した。(編集子)

教育学部本部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局理事 後藤 武俊 (H6年入学)

令和3年度より本部同窓会事務局の幹事を仰せつかることになりました後藤です。皆様、どうぞよろしくお願い致します。これまで事務局長を担当してこられた神谷先生に教えて頂きながら、また、ともに事務局を担当する井本佳宏先生とも協力しながら、本部同窓会の業務に慣れていきたいと考えております。

私の入学した平成6年ごろといえば、学生の多くは手書きかワープロ専用機でレポートを執筆していた時代でした(「文豪」や「書院」などの製品名が懐かしく思い出されます)。卒論の執筆を目前に貯金をはたいてWindows 95搭載のパソコンを購入し、ダイヤルアップでインターネットに接続していたことを思えば、現在のICT環境の進化は目を見張るものがあります(昨年来のコロナ禍でさらに環境整備が進んだことは皮肉ではありますが)。授業の大半がオンラインで実施されるようになり、学生の教育・研究活動も大きく変容しつつあるなかで、同窓会にもとめられる役割は何か、従来の事業を進めつつ考えて行きたいと思えます。

現在、教育学部の事務組織とも連携しながら、同窓会事業の持続的な事務体制の整備に向けて検討を進めております。詳細が明らかになりましたら改めてお知らせ致します。今後ともご支援、ご助言のほど、よろしくお願い致します。



カット：安藤俊恭(39年入学)

東北支部役員名簿

(令和3年度～令和4年総会時)

顧問	大学	八 鍬 友広	25	高橋 公正
	28	永野 昌一	31	雪江 美久
	36	岡崎 忠	36	阿部 琢也
	37	關口 隆		
支部長	39	鹿野 毅		
副支部長	39	軍司 啓	50	吉川 邦彦
	39	光井 正		
参 与	29	石森 幸子	31	柘澤 怜
"	32	佐々木亀三男		宮腰 栄一
理 事	25	高橋 公正	26	三浦 貞昌
"	28	桂島 新一	28	小關 幸生
"	29	市川 宏	31	今野 健
"	31	飯澤 道久	33	金岡 昭房
"	34	氏家 正好	35	岡本 幸子
"	37	中川 典雄	38	文屋 優
"	39	太田 將勝	39	光井 正
"	40	吉野 信武	41	安住 裕
"	48	櫻田 博	52	別府 成裕
"	51	日下 毅	52	白澤 利広
"	54	南城 一之	57	川上 芳夫
"	H 4	吉植 庄栄	H 2	神谷 哲司
"	H 8	井本 佳宏		

事務局・各委員会

事務局

事務局長	39	軍司 啓
事務局補佐	37	關口 隆

会則検討委員会

顧問	39	軍司 啓
委員長	31	柘澤 怜
副委員長	31	今野 健
委員	28	桂島 新一

名簿作成委員会

顧問	37	關口 隆	25	高橋 公正
委員長	33	金岡 昭房		
副委員長	35	中川 典雄		

会計委員会

顧問	39	鹿野 毅		
委員長	32	坂野 優子		
副委員長	39	朴澤 徳昭	41	鈴木きよ子

会報発行委員会

顧問	39	光井 正
委員長	39	太田 將勝
副委員長	50	吉川 邦彦
委員	38	文屋 優

編集後記

小学生時代、幕末文久生まれの母方の曾祖母がまだ健在で、私に武士の子どもの心得を厳しく伝授してくれた。「嘘をつかない。お世辞を言わない。人を尊敬する。相手が自分より若くても、身分が低くても、陰日向なく、人には誠実に仕える。決してえばらない。人を裏切らない。藩や国といった狭い区画の中だけでなく、外国人（ロシア人、シナ人、朝鮮人）に対しても、誠心誠意を尽くすこと。不具の人に対しては特に心を傷つけぬよう、親切心を忘れぬように。」と。

当時、私は、反抗期で半分バカにして聞いていたが、70年近くも経ってみると、懐かしさも半分、胸に迫る何かがある。これは、北前船や

外国商船で賑わった維新の函館松前藩の状況を反映している。

私は、人様への誠実さや優しさにおいて、不十分だった過去を想起し、遅ればせながら、猛省している次第である。(編集子)

○会報25号をお届けいたします。新型コロナウイルスの関連でご心配の中、ご寄稿・ご協力をいただきました方々には衷心より感謝申し上げます。ご感想をお寄せいただけたら幸いです。

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-7-18

軍司 啓 TEL 070-5322-3322